

生まれ変わる鳥羽の教育

vol.1



教育長 小竹 篤

教育委員会学校教育課 ☎ 25 1265

鳥羽市教育ビジョン

令和3年度は、「鳥羽市教育ビジョン」の改訂に「第6次鳥羽市総合計画」「鳥羽市教育大綱」の改訂も重なりました。教育委員会では、これらの策定にも積極的に参画し、鳥羽市の施策方針の中に教育の位置づけを明確にできました。

大きく変わろうとする鳥羽市の教育について、11回のシリーズで連載をさせていただきます。

新しい教育ビジョンの理念①

教 育 目 標

多様な社会を生き抜く、知性・感性・理性にあふれた健康な市民の育成

近代の義務学校は、「知・徳・体」を教育目標とすることが多く、特にその3つの「バランス」が大切だとしてきました。不可のないバランスのよい人間は、組織に取り込みやすい人材でもあったわけで、いわば、国や会社にとって都合のよい教育だったと言えるかも知れません。

しかし、これからの世の中は、人生観や職業観などの価値観の多様化と共に、「違いを認め合い、共生する社会」を目指さなくてはなりません。バランスよりも一人一人の長所や特性にスポットが当たります。それだけに、学力や自分なりの価値観をしっかり持ち、世の中の動向にしたたかに、しなやかに対応できる柔軟さも求められます。

そのような考えのもと、新しい教育ビジョンでは、一人一人が、これからの社会でしっかり生き抜く大切な力として、「知性・感性・理性」の3つを掲げました。

「知性」・・・困難な人生をきり拓くのは、
積み重ねた知と経験です

「感性」・・・感動したり共感したりする心が、
人生を豊かにします

「理性」・・・よりよい社会を創るための基本
理念です

このことを念頭に、「人材」を「人財」として大事に育てていきたいと考えています。



4月3日に鳥羽市民の森公園にて「さくらパントリー（フードパントリー）」が開催されました。フードパントリーとは、企業や団体、市民のかたから寄付された食料（レトルト食品や缶詰など）を必要なたたへ無料で配布する活動を指します。今回のさくらパントリーでは、先着150世帯に食料が配布され、子どもたちにはお菓子の配布も行われました。さくらパントリーが実施されるまでには、食料を寄付する力、食料を管理する力、食料を袋詰めする力、会場を準備する力、食料を配布する力、パントリーを企画する力など、本当に多くの力（協力）を必要としました。これらに対し、鳥羽に関わる多くの個人・企業・団体からの参画があり、当日の鳥羽市民の森公園はとてもすてきな空間となっていました。

キーワード
#フードパントリー
#とば地域・子ども食堂
ネットワーク

ました。多様なかたが参画し、つながり、ともにつくられた「さくらパントリー」は、まさに鳥羽市が目指す地域共生社会のカタチそのものでした。個人・企業・団体が参画した部分は、それぞれ一部分だったかもしれませんが、その一部分がこんなにも大きく、まちのためになることをぜひ知ってもらいたいです。なお、今回のさくらパントリーを主催したのは、鳥羽市内で子ども食堂や全世代対象型の地域食堂を運営する「とば地域・子ども食堂ネットワーク」のみなさんです。これらの地域・子ども食堂は鳥羽市内に5か所ありますので、ぜひまたそちらにも参加してください。



とばびと
活躍
プロジェクト

トバゴト

Vol.9



トバゴトQRコード

健康福祉課長寿介護係

（生活支援コーディネーター 杉浦 徹）

☎ 25 1186